多摩市医師会
災害医療マニュアル

多摩市医師会災害医療委員会

2019年10月

はじめに

阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震…日本各地で繰り返される震災から、我々の住む地域でも大規模地震に対する準備を怠ってはならないとの教訓を得た。

「首都直下地震等による東京の被害想定」（平成24年）によれば、多摩直下地震M7.3の際には多摩市内で死者58名、負傷者1731名（うち重症者197名）の人的被害が想定されている。市内で1000人規模の負傷者が発生した場合、その多くは病院に向かうと考えられる。多摩市の災害医療計画では、超急性期（発災から６～72時間）に市内の４病院門前に緊急医療救護所を設置する。緊急医療救護所の主な目的は、適正な医療資源の配分（トリアージ）により災害拠点病院の機能低下を回避することである。本マニュアルは緊急医療救護所の設置・運営に関する超急性期を中心に記載した。

多摩市医師会は地域との協力体制を最大限に機能させ市民の生命を守り抜く。本マニュアルは多摩市医師会会員がその使命を果たすべく行動し、結果を残すための最強のバイブルである。

一人一人の医師の力が命を救う
医師会員のチームプレイは多摩市を救う

多摩市医師会　災害医療委員会
新垣 美郁代
牛尾 龍朗
中村 弘之
渡辺 英幸

目 次

前 編　～行動編～

1. 行動開始 ……2
2. 緊急医療救護所（発災６時間～ 72時間）……3
   多摩市医師会医療救護班の編成 ……5
   多摩市災害医療コーディネーター ……8
   多摩市医師会 ……8
3. トリアージ　……9
   ・START法・PAT法・トリアージタグの取り扱い
4. 多摩市災害行動マップ …… 18

後 編　～資料編～

5. フェーズ区分 …… 20
6. 災害医療コーディネーター名簿 …… 21
7. 多摩市医師会員名簿（班別） …… 23

付録　災害医療活動時の診療所一時閉院及び救護所のお知らせポスター…… 32

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の１地形図を使用した。
（承認番号　令元情使、第415-GISMAP42190号）

1 行動開始（災害発生直後）

震度５強

災害医療活動を開始

（災害医療コーディネーターは震度５弱で活動開始）

震度５強 確認は多摩市の**行政防災無線放送**

及び 医師会連絡・公共メディア情報

行動開始

自院の来院患者の安全確保と避難所への誘導

診療所職員、自身及び家族の安全確保

自院を閉鎖し、緊急医療救護所へ

（自動召集）

一時閉院及び救護所のお知らせポスター（巻末）を診療所正面に掲示

携帯品：身分証明書　筆記用具　携帯電話　現金

懐中電灯　ヘルメット　飲料水

多摩市災害医療マニュアルポケット版

＊緊急医療救護所は**震度6弱以上**で設置される。ただし震度5強以下でも災害対策本部からの指示により緊急医療救護所設置の可能性があるため、震度5強で行動開始とする。

2 緊急医療救護所（発災6時間～72時間）

原則として診療所は休診とし、緊急医療救護所で超急性期の医療活動を行う。

（災害医療コーディネーターは市役所内の災害対策本部内福祉医療対策部で医療救護活動を統括する）

緊急医療救護所の目的

①応急処置

②適正な医療資源の配分（トリアージ）

多数の負傷者が発生した場合に、優先的に医療処置が必要な負傷者（重傷者）を選別し医療資源の適正な配分を行う。

③災害拠点病院の病院機能の低下の回避

多数の負傷者が病院に殺到した場合でも、病院の機能低下を回避する。

緊急医療救護所

軽症者
家庭・地域
緊急医療救護所
帰宅
帰宅
災害発生
来院者の急増
トリアージ
応急処置の実施
災害拠点病院
◆設置場所（4か所）
・災害拠点病院（2か所）
・災害対策本部指定病院（2か所）
重症者
運営期間：
発災直後～超急性期

災害時の病院の位置づけ

- **災害拠点病院**　：**多摩南部地域病院**
  日本医科大学多摩永山病院
- **災害拠点連携病院（相当）**：**厚生荘病院**　**桜ヶ丘記念病院**
- **災害医療支援病院（相当）**：**天本病院**　**聖ヶ丘病院**
  多摩中央病院　**島田療育センター**

災害時の限られた医療資源を有効に活用し、重症者等を円滑に受入れるための医療機関の役割分担

1）多摩市医師会医療救護班の編成

緊急医療救護所を中心に４班構成とする。

緊急医療救護所	班名
日本医科大学多摩永山病院	永山班
多摩南部地域病院	南部班
厚生荘病院	厚生荘班
桜ヶ丘記念病院	桜ヶ丘記念班

・各班は班長を１名定める。班長は各班の指揮をとるとともに、病院内災害医療対策本部との連絡を密にし、医療救護班と病院との連携が円滑に行われるよう努める。
・**永山班、南部班**は緊急医療救護所で一次トリアージ（**START法**）及び軽症、中等症の一部の治療を担当する。
・**厚生荘班、桜ヶ丘記念班**は緊急医療救護所で一次トリアージ（**START法**）、及び軽症、中等症の一部の治療を担当する。また、搬送の必要な重症傷病者の二次トリアージ（**PAT法**）及び災害拠点病院への搬送業務を行う。

（1）永山班：馬引沢・諏訪・永山・貝取・乞田

日本医科大多摩永山病院前の緊急医療救護所担当

あいクリニック　池田クリニック　石川小児クリニック　貝取内田医院
川崎皮膚科　木村眼科　斉藤内科呼吸器科　鈴木内科胃腸科
たかまつ耳鼻咽喉科　多摩かぜまち内科クリニック　多摩クリニック
多摩みなみクリニック　永山整形外科　永山内科クリニック
永山皮膚科　ながやまメンタルクリニック　にしだこどもクリニック
中村内科医院　長谷川クリニック　ひとみタウンケアクリニック
松田医院　宮国医院　山下眼科クリニック　和光内科胃腸科

（2）南部班：愛宕・豊ヶ丘・落合・鶴牧・中沢・唐木田

多摩南部地域病院前の緊急医療救護所担当

あいクリニック中沢　あたごクリニック　新垣内科外科クリニック
あべ多摩センター内科　井上内科クリニック　江崎小児クリニック
からきだ駅前クリニック　唐木田こどもクリニック
北澤ニュータウンクリニック　こどもクリニックしみず
こまちレディースクリニック　椎の木内科クリニック
武島内科クリニック　多摩海上ビル診療所　多摩ガーデンクリニック
多摩センタークリニックみらい　多摩センターわたなべ眼科
多摩センター庄司整形外科　多摩センターレディースクリニック
多摩なのはな眼科クリニック　田村クリニック　深谷内科
宮下眼科　めぐみクリニック　吉沢クリニック 若生脳神経外科
渡辺クリニック

（3）厚生荘班：一の宮・関戸・桜ヶ丘・東寺方・落川・百草・和田

厚生荘病院前の緊急医療救護所担当

大池内科クリニック　大塚診療所　桜ヶ丘診療所　聖蹟こころ眼科
関谷クリニック　橋本耳鼻咽喉科　ヒルズクリニック聖蹟　布施川医院
まさ内科クリニック　松田健身クリニック　やはの内科・胃腸科クリニック
和光園診療所

（4）桜ヶ丘記念班：関戸・桜ヶ丘・連光寺・聖ヶ丘

桜ヶ丘記念病院前の緊急医療救護所担当

石原整形外科　桜ヶ丘クリニック　桜ヶ丘神経内科クリニック
桜ヶ丘皮膚科医院　佐々部医院　佐藤医院　せいせきサトウクリニック
武井小児科　平賀診療所　深水耳鼻咽喉科　まえはら小児科
ワタナベ眼科　山善内科クリニック

（5）専門医療診療所（人工透析クリニック及び産科）：災害医療班除外

災害時においても医療機能の維持が求められる周産期医療及び透析医療を行う診療所は既存のネットワーク等の連携体制を活用し、原則として自院において診療継続に努める。

赤枝医院　桜ヶ丘東山クリニック　多摩永山腎・内科クリニック
多摩永山高田クリニック　多摩ゆうあいクリニック　みゆきクリニック

2）多摩市災害医療コーディネーター

（ア）役割

①市が医療救護活動等を統括・調整するために必要な医療情報を集約・一元化し、医療救護活動等に関する医学的助言を行う。

②平時から、区市町村の医療連携体制に関する医学的助言を行う。

③医療救護活動拠点における「区市町村連絡調整会議」の医療に関わる中心的な役割を担うほか、地域災害医療コーディネーターや圏域内の区市町村コーディネーター等関係機関との情報連絡体制を構築する。

（イ）具体的な職務

多摩市災害医療コーディネーターは、大規模災害時において、市災害対策本部に参集し、地域における次の職務に関する統括・調整を行うための医学的助言を行う。

①医療救護班の活動に関すること

②医療情報の収集提供に関すること

③収容先医療機関の確保に関すること

④東京都地域災害医療コーディネーターとの連絡調整に関すること

⑤その他医療救護に関すること

3）多摩市医師会

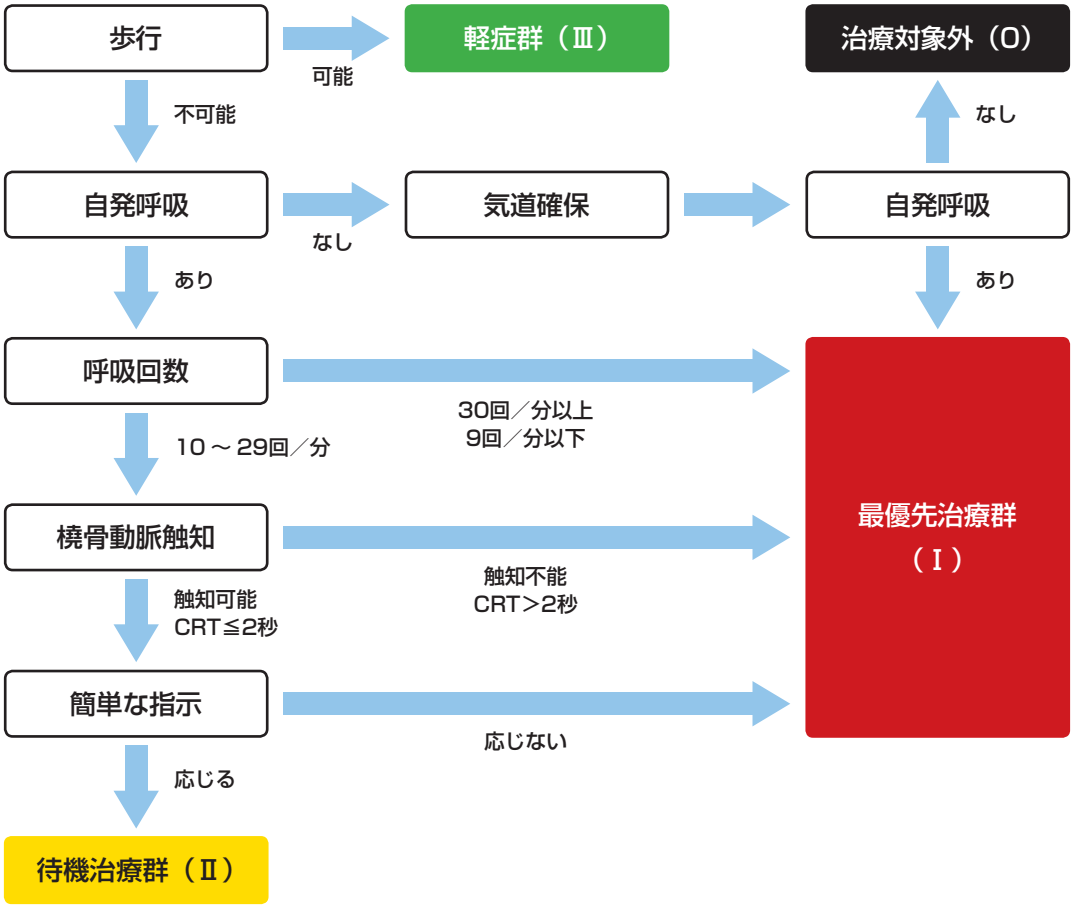
多摩市医師会館を拠点に、多摩市医師会事務長を中心として会員の安否確認、診療所の被災状況などの情報を収集し多摩市災害医療コーディネーターへ報告する。また多摩市医師会員へ情報を提供する。

3 トリアージ

トリアージとは医療資源が制約される中で、1人でも多くの傷病者に対して最善の治療を行うために、緊急度に応じて、搬送や治療の優先順位を決めることである。

START（Simple Triage Rapid Treatment）法

START法　傷病者の数が多い場合に対応できるよう、判定基準をできるだけ客観的かつ簡素にしたトリアージ法。1人の傷病者を30秒程度で判定する。まず**歩行→呼吸→循環→意識の確認**を行う。



Column

毛細血管再充満時間capillary refilling time（CRT）とは？

手指の爪を5秒間圧迫しパッと離してから色が元に戻るまでの時間により判定され、その時間が2秒以下であれば正常である。※昨今は脈拍触知が中心となりつつある。

PAT（Physiological and Anatomical Triage）法

生理学的・解剖学的評価を行って生命危機が疑われる病態を探り、治療の優先順位を決める。
START法と異なり、赤項目があっても最後までやり遂げる。

1．生理学的評価（ABCの評価）

気道確保・止血処置はトリアージ中に行われる数少ない治療行為である。傷病者数や状況により「どこまで行うか」は変わりうる。

A＋意識

①呼びかけて気道開通の有無、意識を確認。
気道確保や補助換気は必要か？
JCS2桁以上、舌根沈下、気道閉塞あれば赤。

明瞭な発声による返事があれば、「気道開通」「意識がある」と判断する。

B

②呼吸の観察。（見て・聞いて・感じて）
呼吸の深さや速さは？副雑音はあるか？
呼吸数10回未満30回以上、SPO_2 90%以下は赤。

C

③循環の観察。（橈骨動脈を触知・皮膚に触れ）
脈拍の速さや強さは？皮膚の湿潤はあるか？
CRT＞2秒以上、HR50未満、120以上は赤。
収縮期血圧90未満、200以上は赤。

④**体温35.0度未満は赤。**

⑤活動性出血の有無を観察。
観察者が腰を起こして全身を観察。
出血があれば圧迫止血を行う。

アクティブな出血はC（循環）の異常ととらえる。

2．解剖学的評価

表1の病態が疑われれば赤

頭部の観察

⑥外観を見て出血や変形、脳脱を観察。
同時に耳からの出血を観察。

⑦触知し変形や動揺、圧痛を観察。
※開放性頭蓋骨（陥没）骨折があれば赤。
鼻・耳からの出血は髄液の耳漏か鼻漏は頭蓋底骨折を疑う。

3．顔面の観察

⑧外観を見て出血や変形を観察。

⑨上顎や下顎を触診し動揺の有無を観察。

※上顎骨や下顎骨、喉頭を形成する軟骨の骨折は気道閉塞に結びつきやすい。状況次第で早めの気管挿管・気管切開（輪状甲状靭帯穿刺）を考慮せざるをえない。

4．頸部の観察

⑩外観を見て出血や変形を観察。
頚動静脈の怒張の観察。

⑪触診で気管の変位や皮下気腫の有無を観察

※１つの傷によって気管、血管、食道、腕神経叢など複数の臓器が損傷しうる！
気道閉塞に注意！
頸静脈の怒張は心タンポナーデ、緊張性気胸を疑う。
前頚部で気管の偏位があれば緊張性気胸の超緊急状態！
皮下気腫は気胸のサイン！

⑫後頸部の圧痛を観察。
※頸部は愛護的に扱う。脊髄損傷に注意する。

平時の医療であれば脊髄損傷の可能性が少しでもあれば頸椎カラーを着用する。災害時は傷病者数、資機材の状況にもよるが、脊髄損傷の可能性が高ければ頸椎カラー装着を考慮する。

5．胸部の観察

⑬外観を見て出血や変形、呼吸様式を観察。
胸郭挙上の左右差はないか？
腹式呼吸や奇異呼吸、陥没呼吸はないか？
※観察の順番は、視診→聴診→触診。
聴診は第４肋間中腋窩腺で行う。

⑭聴診で呼吸音を観察。
左右差や副雑音はないか？

⑮触診し変形や動揺、圧痛、轢音を観察。

解放性胸壁損傷→3辺テーピング
フレイルチェスト→固定
緊張性気胸→緊急脱気
これらもトリアージ中に行われる数少ない処置。

身体の観察においてどこまで体を露出させるか難しい面がある。プライバシーへの配慮は必要である。

6．腹部の観察

⑯外観を見て出血や変形を観察。
膨隆や打撲痕、腸管脱出はないか？

⑰触診にて腹壁の緊張や圧痛を観察。
※腸管脱出→被覆。
膨隆→腹腔内出血の疑い。

7．骨盤の観察

⑱外観を見て出血や変形、下肢長差を観察。

⑲腸骨稜を内側に絞り込むように圧迫し、痛みの有無を観察。（愛護的に１回のみ）
※骨盤骨折の疑いがトリアージタッグに記入されていたらこの観察は出血を助長するので行わない！
骨盤骨折は大量出血を起こす恐れがある！

⑳⑲で痛みがなければ恥骨結合を軽く圧迫し痛みの有無を観察（愛護的に１回のみ）。

※骨盤骨折の疑いがトリアージタッグに記入されていたらこの観察は出血を助長するので行わない！

9．大腿部の観察

㉑外観を見て出血や変形の有無を観察。

㉒触診で動揺や轢音の有無を観察。

大腿骨骨折は出血量1000mL以上、解放骨折時は2000mLに及び、出血性ショックとなりうる。両側大腿骨骨折ではさらに重篤化する。

10. 下腿の観察

圧挫滅症候群（クラッシュ症候群）は皮膚発赤、水泡形成により熱傷と誤診されやすい。

㉓触診で運動麻痺や知覚異常を観察。
簡単な指示に従えるか？

四肢の急性阻血症状の６P

Pain	疼痛
Paleness	蒼白
Paralysis	運動麻痺
Paresthesia	知覚異常
Pulselessness	脈拍消失
Poikilothermia	皮膚色調異常

すべてはそろわないことが多い。

11. 上肢の観察

㉔触診で運動麻痺や知覚異常を観察。
簡単な指示に従えるか観察。

※四肢の麻痺→脊髄損傷を疑う。

12. 解剖学的評価で下記の表1が疑われれば赤

（表1）解剖学的評価一覧

身体所見	疑われる病態
開放性頭蓋骨（陥没）骨折	
髄液鼻漏・髄液耳漏	頭蓋底骨折
頸部皮下気腫・気管変形	気管損傷
外頸静脈の著しい怒張	心タンポナーデ・緊張性気胸
気管偏位	緊張性気胸・気管損傷
皮下気腫	気胸
呼吸音左右差	血気胸
胸郭動揺・奇異性呼吸	フレイルチェスト
胸部創より気泡交じりの出血	開放性気胸
腹壁緊張･腹部膨隆・腸管脱出	腹腔内出血・腹部臓器損傷
骨盤動揺・圧痛・下肢長差	骨盤骨折
大腿の変形・出血・腫張・圧痛・下肢長差	両側大腿骨折
四肢麻痺	脊髄損傷
四肢軟部組織剥脱	デグロービング損傷
顔面の熱傷・鼻毛焼灼・口鼻腔内スス付着・嗄声	気道熱傷
重量物挟まれ・下敷き・ポートワイン尿	クラッシュ症候群
頭部・体幹部・頚部への穿通性外傷	重症臓器損傷・大血管損傷
四肢・体幹の切断	
15%以上の熱傷を伴う外傷・顔面、気道熱傷	

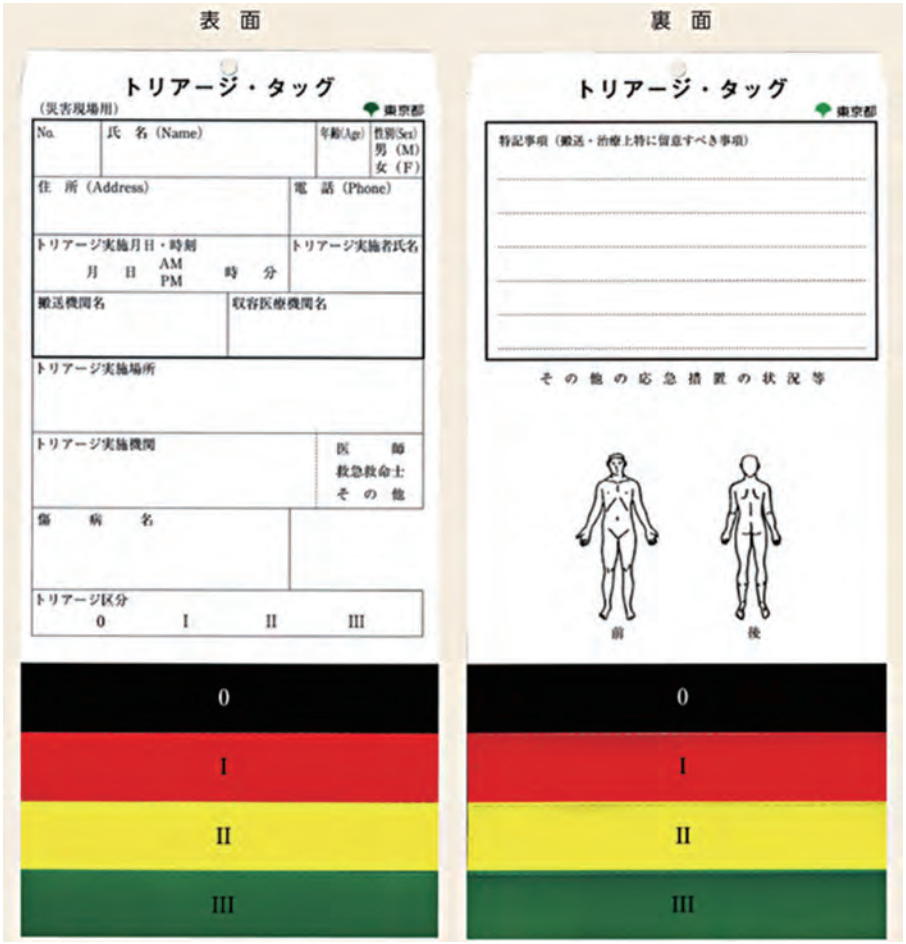
13. 受傷機転や災害弱者を考慮（適応すれば黄以上）

※生理学的・解剖学的評価で赤が否定された場合

受傷機転	災害弱者
体幹部や1肢以上の挟まれ（4時間以上）	幼小児・高齢者・妊婦・障害者
高所墜落・爆発・異常温度環境　有毒ガス・NBC汚染	慢性基礎疾患患者・旅行者

トリアージタグの取り扱い

トリアージタグ＝救急隊活動・救急救命処置録＋カルテであり、医療救護活動場面で一貫して利用する。
原則右手首に装着し、右手首が損傷・切断などの場合、左手首、右足首、左足首、首の順につける部位を変える。衣服・靴等への装着はしない。



記載項目	記載方法及び記載内容
タグのNo.	トリアージ実施場所ごとに通し番号を付ける。
氏名　年齢 **性別　住所** **電話**	氏名はカタカナ 不明の場合には“氏名不詳”、“推定〇〇歳”、“××路上で収容”など
トリアージ実施月日時刻	分単位まで記載
トリアージ実施者氏名	フルネームで記載
搬送機関名	“〇〇救急隊”、“家族の自家用車”など
トリアージ実施場所	“〇〇病院前医療救護所”“△△病院”など
収容医療機関名	患者を収容した病院名
トリアージ実施機関	“〇〇病院班”“△△医師会班”などトリアージを行った者が所属する機関名・職種
傷病名	医師は傷病名を記載 確定できない場合や医師以外は“創傷”、“骨折”、“出血”などと記載
トリアージ区分	トリアージ区分を〇で囲み、トリアージ区分と同じモギリ部分を残して切り離す。 重症化による区分変更時は、最初に〇で囲んだ区分を×で消して新たな区分を〇で囲む。区分変更者の氏名と変更時刻を下側スペースに追記する。あわせて変更後のトリアージ区分と同じモギリ部分を残して切り離す。 軽症化による区分変更時は、旧タッグに大きく×を付け、新たに２枚目のトリアージタグを作成する。
特記事項	災害現場、搬送期間、収容医療機関で共通に使用。搬送・治療上特に留意すべき事項を記載。 既往歴、応急処置内容、発見状況など
人体図	負傷箇所の表示、負傷状況などの記載

①トリアージチームの構成

最低２名一組が原則
判定担当者と記録担当

②タグ記載上の注意事項

・トリアージ区分とその根拠となる所見は必須
・追記・修正に備えスペースを残し上に詰めて書く
・追記は二重線で抹消しないで下側スペースに
・不明及び未確定の項目は空欄のまま
・黒色ボールペンを使用（複写文字と区別するため）
・三枚つづりのため筆圧がかなり必要
・汚染・破損に注意

③タグを短時間で記載するためのコツ

・一次トリアージ（START法）は30秒程度で迅速に評価する
・事前に書ける欄はあらかじめ記入（通し番号，実施機関，実施者など）
・個人情報は必要最小限でよい（軽症者には自分で記入してもらう）
・記載は記録担当者が行い、判定担当者は観察と判定に専念する

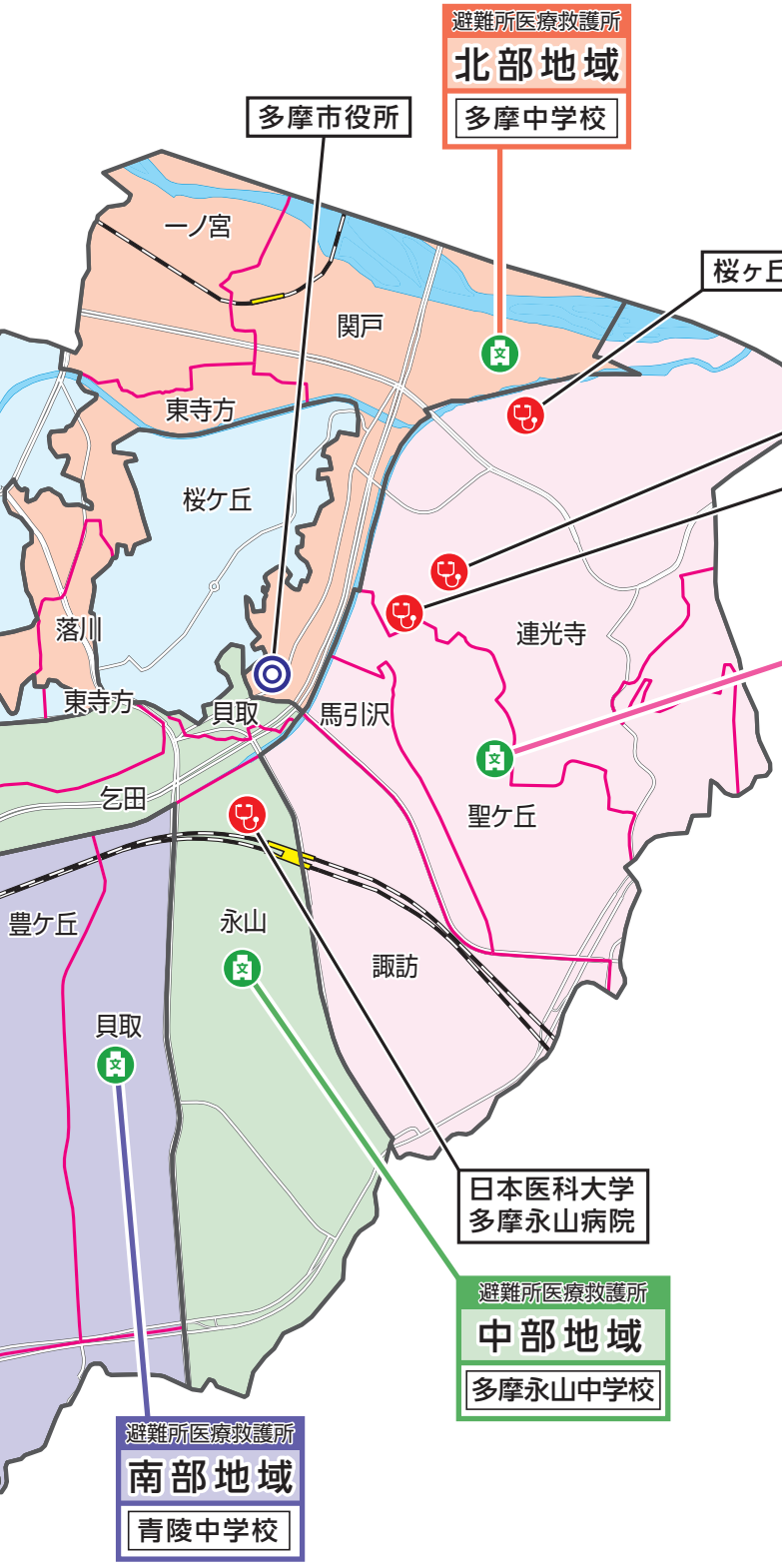
④トリアージとタグ記載の流れ

〈傷病者集積場所〉 トリアージタグの装着	トリアージ区分 その区分を選択した根拠（START法） トリアージ実施時間 トリアージ実施者
〈現場救護所搬入時〉	患者個人情報（氏名、性別、年齢等） 新たなトリアージによる区分確認または訂正 傷病名（疑い病名） 特記事項に観察所見や傷病者の既往歴・背景
〈現場救護所搬入時〉 トリアージタグの記載完成	特記事項に処置内容，容態変化，医療情報の追加記載 搬送機関名 収容医療機関名

搬出時にタグの1枚目を回収し，緊急・医療救護所（消防現場）指揮所で保管する。
2枚目は、搬送機関（消防等）が医療機関搬入時に回収・保管する。
3枚目は、収容医療機関で情報管理に活用・保管する。

4 多摩市災害行動マップ

災害対策本部		
多摩市役所		多摩市関戸6-12-1
緊急医療救護所		
多摩南部地域病院		多摩市中沢2-1-2
日本医科大学多摩永山病院		多摩市永山1-7-1
厚生荘病院		多摩市和田1547
桜ヶ丘記念病院		多摩市連光寺1-1-1
災害医療支援病院		
天本病院		多摩市中沢2-5-1
島田療育センター		多摩市中沢1-31-1
聖ヶ丘病院		多摩市連光寺2-69-6
多摩中央病院		多摩市連光寺2-62-2
避難所医療救護所 **急性期（72時間以降）**は、以下の6か所に**避難所医療救護所**を設置する。		
北部地域 一ノ宮・百草・落川・関戸・東寺方（3丁目を除く）	多摩中学校	多摩市関戸3-19-1
東部地域 連光寺・聖ヶ丘・馬引沢・諏訪	聖ヶ丘中学校	多摩市聖ヶ丘2-17
中部地域 永山・愛宕・乞田・貝取（1～5丁目を除く）	多摩永山中学校	多摩市永山2-7-1
西部地域 和田・桜ヶ丘・東寺方3丁目	和田中学校	多摩市和田234
南部地域 貝取1～5丁目・豊ヶ丘・南野	青陵中学校	多摩市貝取2-9-1
多摩センター地域 落合・鶴牧・唐木田・中沢・山王下	鶴牧中学校	多摩市鶴牧6-5-1



Column

緊急医療救護所と避難所医療救護所の差異

緊急医療救護所と避難所医療救護所は、目的の異なる救護所である。前者の目的等は、前頁の１）のとおり。一方で後者は、発災から３日以内に市内の地域包括支援センター担当地域別に原則計６箇所の中学校に設置するものである。その目的は、避難所へ避難している被災者を中心に医療的行為（健康相談なども含まれる）を行うものである。

緊急医療救護所と異なり避難所医療救護所は、発災後の一定時間経過後に設置され、避難所生活に伴う健康相談、公衆衛生、病気けが予防、体調不良の改善などを主として扱うものと想定している。

なお、避難所医療救護所の運営形態は、前述した６箇所を拠点としながらも各避難所を巡回して任務を処理するものと想定している。

緊急医療救護所と避難所医療救護所は、時間軸から見れば、発災初期では緊急医療救護所が立ち上がり、緊急医療救護所が解散した後、避難所医療救護所の設置運営（巡回）を行う。

5 フェーズ区分

	区分	想定期間	状 況
0	発災直後	発災～ 6時間	建物の倒壊や火災等の発生により、傷病者が多数発生し、救出救助活動が開始される状況
1	超急性期	6時間 ～ 72時間	多数の傷病者が医療機関に搬送されるが、ライフラインや交通機関が途絶し、被災地外からの人的・物的支援が少ない状況
2	急性期	72時間 ～ 1週間程度	被害状況が少しずつ把握でき、ライフライン等が復旧し始めて、人的・物的支援の受入体制が確立されている状況
3	亜急性期	1週間 ～ 1か月程度	地域医療やライフライン機能、交通機関等が徐々に復旧している状況
4	慢性期	1か月 ～ 3か月程度	避難生活が長期化しているが、ライフラインがほぼ復旧して、地域の医療機関や薬局が徐々に再開している状況
5	中長期	3か月以降	医療救護所が閉鎖され、通常診療がほぼ再開している状況

区　　分		主な活動内容
0	発災直後 （発災～ 6時間）	災害時医療コーディネーターの設置 被害情報の収集・集約 **緊急医療救護所の運営**
1	超急性期 （6 ～ 72時間）	医療救護班等の編成・派遣 医療救護所の運営
2	急 性 期 （72時間～ 1週間）	医薬品ストックセンターの設置・運営 避難者への巡回診療
3	亜急性期	
4	慢性期	
5	中長期	

6　災害医療コーディネーター名簿

東京都災害医療コーディネーター

氏　名	現　　職
猪口　正孝	東京都医師会　副会長
大友　康裕	東京医科歯科大学医学部附属病院　救命救急センター長
山口　芳裕	杏林大学高度救命救急センター長

東京都地域災害医療コーディネーター

南多摩（八王子市、町田市、日野市、多摩市、稲城市）担当

氏　名	現　　職
新井　隆男	東京医科大学八王子医療センター救命救急センター長

多摩市災害医療コーディネーター

氏　名	所　属	mail
佐々部　一	佐々部医院	h-sasabe@tama-med.or.jp
中村　弘之	中村内科医院	h-nkmr@nms.ac.jp
林　　幹彦	永山整形外科	micky@nms.ac.jp

災害拠点病院（南多摩医療圏域）

名　称	住　所
日本医科大学多摩永山病院	多摩市永山1-7-1
多摩南部地域病院	多摩市中沢2-1-2
東京医科大学八王子医療センター	八王子市館町1163
東海大学医学部付属八王子病院	八王子市石川町1838
稲城市立病院	稲城市大丸1171
町田市民病院	町田市旭町2-15-41
南町田病院	町田市鶴間1008-1
日野市立病院	日野市多摩平4-3-1

7 多摩市医師会員名簿

＊代表でA会員名を記載　A会員以外の災害医療活動への参加を妨げるものではない

永山班

リーダー：松田 環、和光 儀威、山元 正之

氏　名	所　属	電話
松田　　環	松田医院	042-373-3205
和光　儀威	和光内科胃腸科	042-311-7311
山元　正之	永山内科クリニック	042-338-2355
濱谷　弘康	あいクリニック	042-375-9581
池田　草二	池田クリニック	042-374-0886
石川　厚志	石川小児クリニック	042-371-2366
内田　　憲	貝取内田医院	042-389-3646
川崎　　了	川崎皮膚科	042-338-4565
木村　純一	木村眼科	042-400-0860
斉藤　宣照	斉藤内科呼吸器科	042-373-2522
鈴木　秀彦	鈴木内科胃腸科	042-371-2760
高松　俊輔	たかまつ耳鼻咽喉科	042-371-1187
田中　健一郎	多摩かぜまち内科クリニック	042-338-6611
竹内　あづさ	多摩クリニック	042-375-7753
濱田　隼一	多摩みなみクリニック	042-311-4415

氏　名	所　属	電話
林　　幹彦	永山整形外科	042-337-5555
田代　博嗣	永山皮膚科	042-373-7800
横田　圭司	ながやまメンタルクリニック	042-310-0800
中村　弘之	中村内科医院	042-375-7757
西田　大祐	にしだこどもクリニック	042-376-1001
長谷川　正浩	長谷川クリニック	042-337-0166
大池　ひとみ	ひとみタウンケアクリニック	042-338-3281
宮国　泰斗	宮国医院	042-376-4747
山下　泰弘	山下眼科クリニック	042-389-1090

南部班

リーダー：丹沢 俊弘、飛田 正俊、渡辺 英幸

氏　名	所　属	電話
丹沢　俊弘	田村クリニック	042-356-0677
飛田　正俊	唐木田こどもクリニック	042-355-8505
渡辺　英幸	渡辺クリニック	042-371-3321
明石　のぞみ	あいクリニック中沢	042-311-2820
森山　　豊	あたごクリニック	042-374-7700
安部　　剛	あべ多摩センター内科	042-373-7750
新垣　美郁代	新垣内科外科クリニック	042-373-0514

氏　名	所　属	電話
井上　智雄	井上内科クリニック	042-372-3660
江崎　宗憲	江崎小児クリニック	042-376-5225
関原　　正	からきだ駅前クリニック	042-376-3800
北澤　幸夫	北澤ニュータウンクリニック	042-376-3112
清水　伸泰	こどもクリニックしみず	042-373-0512
早川　　繁	こまちレディースクリニック	042-357-3535
羽入田　陽一郎	椎の木内科クリニック	042-337-5711
武島　英人	武島内科クリニック	042-338-5665
飯島　敏彦	多摩海上ビル診療所	042-356-2222
武藤　美香	多摩ガーデンクリニック	042-357-3671
藤井　仁美	多摩センタークリニックみらい	042-316-8570
庄司　豊彦	多摩センター庄司整形外科	042-310-1301
増田　　充	多摩センターレディースクリニック	042-375-5122
渡邊　裕士	多摩センターわたなべ眼科	042-372-3333
黒石川　誠	多摩なのはな眼科クリニック	042-401-7878
深谷　修一	深谷内科	042-372-3311
宮下　　啓	宮下眼科	042-357-4407
牧野　裕司	めぐみクリニック	042-311-1566
吉澤　洋景	吉沢クリニック	042-373-2340
若生　直秀	若生脳神経外科	042-373-1160

厚生荘班

リーダー：橋本 循一、布施川 雄一、鈴木 誠一

氏　名	所　属	電話
橋本　循一	橋本耳鼻咽喉科	042-356-4133
布施川　雄一	布施川医院	042-373-5858
鈴木　誠一	聖蹟こころ眼科	042-400-6540
大池　澄孝	大池内科クリニック	042-355-7001
西　　一仁	大塚診療所	042-311-1234
正司　万左志	桜ヶ丘診療所	042-337-0366
関谷　宗則	関谷クリニック	042-374-9888
原　　直範	ヒルズクリニック聖蹟	042-316-5556
升谷　雅行	まさ内科クリニック	042-355-2300
松田　健身	松田健身クリニック	042-375-3337
矢羽野　壮光	やはの内科・胃腸科クリニック	042-356-3761
牛尾　龍朗	和光園診療所	042-374-2590

桜ヶ丘記念班

リーダー：渡辺 敏樹、渋谷 博文、前原 幸治

氏　名	所　属	電話
渡辺　敏樹	ワタナベ眼科	042-311-1841
渋谷　博文	桜ヶ丘皮膚科医院	042-375-8820
前原　幸治	まえはら小児科	042-374-5028
田辺　明彦	石原整形外科	042-337-2727
添野　眞一	桜ヶ丘クリニック	042-338-3301
大谷　輝信	桜ヶ丘神経内科クリニック	042-374-6511
佐藤　秀紀	せいせきサトウクリニック	042-337-2715
佐々部　一	佐々部医院	042-375-7313
佐藤　治子	佐藤医院	042-375-7980
武井　章人	武井小児科	042-357-3030
秋山　睦子	平賀診療所	042-375-7154
深水　条輔	深水耳鼻咽喉科	042-374-2365
山田　善史	山善内科クリニック	042-372-5588

専門医療診療所（人工透析及び産科）：災害医療班除外

氏　名	所　属	電話
赤枝　朋嘉	赤枝医院	042-337-6603
片岡　肇一	桜ヶ丘東山クリニック	042-338-3855
松川　重明	多摩永山腎・内科クリニック	042-311-2417
高田　大輔	多摩永山高田クリニック	042-400-5145
君川　正昭	多摩ゆうあいクリニック	042-310-1881
辻野　　武	みゆきクリニック	042-372-4853

多摩市医師会員の皆様へ
災害時に備えて

●災害時には緊急医療救護所で医療活動を行います！

●日頃からこのマニュアルに目を通しましょう！

●医師会の防災訓練に参加しましょう！

●ポケットマニュアルはいつでも持ち出せるように準備！

●いつかやろうではなく、常に備えよう！

＜MEMO＞

＜MEMO＞

お知らせ

このたびの災害に際し、当院医師が

（　　）病院の

緊急医療救護所で救護活動を行うため、

当院は一時閉院します。

当院は

月　日（　）

から診療再開の

見込みです。

よろしくお願いいたします。